

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400078		
法人名	社会福祉法人 桜園		
事業所名	グループホーム さくらそう(すずかぜユニット)		
所在地	福岡県筑後市大字西牟田6028-1		
自己評価作成日	平成27年3月4日	評価結果確定日	平成27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4092400078-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成27年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらそうの理念の中心にある『笑』がある生活を送る事ができるように、スタッフ全員で入居者の方の生活を支え、笑顔で一日を過ごして頂く事を目標にし支援していくように努めている。また、認知症に特化した施設として、さくらそう農園での農作業などを通して、少しでも認知症の進行防止、現状維持ができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立時に職員間で話し合いを行い理念を作成し、事業所独自の理念『笑を中心に自由・思いやり・安心・信頼』を掲げ、その理念を職員がいつでも目に付くように玄関ホールに掲示している。入浴は入居者の希望に応じて、午前・午後と分けて1対1で入浴介助をおこない、お湯もその都度入れ替えている。屋食後には、職員が交代で居室内の5分間清掃として毎日実施している。家族からの要望で、事業所内の6ヶ所のトイレに手すりの取り付けを行っている。地域へ開かれた、さくらそうカフェを行い地域住民の参加や施設訪問・見学を促している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑を中心に、自由、思いやり、安心、信頼そして、みんなで支えあいながら、楽しく笑いあひながら慣れ親しんだ『ちっこ』でさあ暮らそうを理念とし、職員の目の届く所に掲示して、一人一人が役割を果たせるようにしている。	設立時に職員間で話し合い事業所独自の理念である『笑みを中心に自由、思いやり、安心、信頼』を常に、入居者や職員の目に触れるように玄関ホール等に掲示している。入居者にとっての安心・安全を考えた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りへの参加、また等事業所での空き祭りに地域の方々を招待するなど、開設当初から比べると、毎年少しずつではあるが、交流を深めていく事ができていると思われる。	自治会に加入しており、地域の夏祭りには、職員と入居者と一緒に出掛けている。さくらそうカフェを開き、地域の方々にも区長や民生委員を通じ声をかけ参加を促している。	開設4年となり、地域の方々に認知されるようになってきている。これからも、事業所としての役割を目標に、地域にとって必要な事業所として期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献事業としての、「さくらそうカフェ」を事業所内で月1回開催し、協力医療機関のソーシャルワーカーと連携し、認知症や介護に関する相談などを受ける体制をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での、御家族、行政等からのご意見について、会議録に記載し、情報を共有できるようにしている。	運営推進会議では、家族、区長、行政担当者、等が参加し、意見や要望、感想、行事、経過報告等の話し合いを行う。会議内容についても職員へ周知し運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の介護保険係の方には、不明な点での質問や、運営推進会議、アクシデント報告などを通じての関わりを持ち、現状の説明などを行っており、状況についての理解をして頂いている。開設から4年が経過し、関係は築けていると思われる。	行政担当者とは、日常の業務において不明な点や介護保険改正に関する質問などを通じて連携を図っている。インシデントやアクシデントについても報告をし、困ったことや些細なことも相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、原則行っていない。玄関についても夜間帯は施錠を行うが、日中は開錠しており、外に出ようとされる方に関しては、見守り、付き添いを行い、出来るだけ行動を制限しないように努めている。	内部研修や外部研修を通じて全職員へは周知している。基本的なことを日常の支援において職員へ伝達している。申し送りやミーティング等で、自分に置き換えての入居者支援にあたることを共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年、同グループ内での虐待防止に関する研修が開催され、研修の中で虐待について考える機会を設けている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、研修があっており参加している。成年後見制度等について、ご入居者の方で必要な方がいらっしゃるかどうか検討するが、実際に利用される方はない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用される入居者は今のところいないが、職員へは内部研修を通して、今後予測しながら、職員の意識を向上させ、将来を見つめ家族と協議相談を行い取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族にとっては、契約当日に、契約内容を詳細に渡り理解する事は難しいと思われる為、契約の際には必ず、契約書を読み直して頂き、ご不明な点については、いつでも尋ねて頂くようにお話をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、件数は少ないがご意見を頂いている。その内容に関して職員で検討し、手すりを設置するなどの対応をとっている。	担当者会議や来所時を利用して意見や要望を伺っている。家族から出された要望を基に、管理者と職員間で検討し、入居者の安全性を考えて、家族の要望に応えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、グループホーム会議、またユニット会議を開催し、スタッフからの意見や提案を聞くように努めている。	ユニット会議やグループホーム会議で協議し運営に反映している。特にユニット会議では、職員からの入居者支援への意見が多く、入居者の状態をよく観察する姿勢が向上している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等を通じて、スタッフの思いや考えなどを聞き、またそれ以外でも個々の意見などではできるだけ話を聞くように努めている。職員の個々の努力や実績、勤務状況に関して、上司に報告を行うなどの対応をとっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	性別、年齢などを理由に不採用とする事はない。幅広い年齢層のスタッフが働いている。様々な年齢層のスタッフが在る事で、各年齢層に応じた能力を発揮できているのではないかとと思われる。	職員が働きやすい環境をつくり、職員の能力に応じて対応している。採用については、経験を重視するのではなく、その人の思いや人間性、先に挨拶が出来るなどを考慮しながら取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	毎年研修があり参加している。日常のケアの中で、ご入居者に対して、適切でない声かけなどがあつた際には、どの都度指導して対応している。	人権教育や啓発活動については、職員研修を通して周知している。経験の浅い職員に対しては、管理者やベテラン職員による指導等において伝えている。連絡ノートなどを確認しながら支援を行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフがスキルアップできるように、毎月の施設内研修等への参加を勧めるなどの対応をとっている。働きながら日々のケアの中で学んでいる事は多いと思われるが、個別での指導などの取り組みは今後の課題であると思われる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加し、他の施設のスタッフの方との交流を行う中で、情報交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に本人様に面談を行い、不安な事や困っている事を聞いておきフェイスシートに落とし込みをし他職員にも伝達を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にもご家庭での様子を尋ねておきフェイスシートに落とし込み、ケアプランに反映させている。また電話連絡や実際に面会を行い安心して頂けるよう施設での生活の流れをお伝えする。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の優先順位を考慮した援助方法を事前に説明を行いながら理解を深めて頂き、「その時」にご家族様が不安を抱かれないよう援助を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に楽しく生活が送れるよう心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態の変化に気付いた際はご家族様に報告を行い、なじみの生活習慣を参考に出来る様ご家族様も含めて考慮している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時にはゆっくりと過ごして頂ける様環境を整えている。また場合によってはご家族様の了承のもと自宅付近まで外出する機会を設けている。	面会に来られた方への対応として、落ち着いた話ができるように居室で対応している。入居者で買い物希望される方へは、職員と一緒に出掛け希望に応じている。困難な要望を言われる方へは、家族と相談を行い対処している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや談話を通し、互いに心地よい空間になるよう支援を行っている。状況によっては席替えなどを行っている。入居者間トラブルがあった際は両者に話しを聞き仲裁を行ったり、ケアのあり方を見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も個人情報に留意しながら他事業所(地域連携室等)へ連絡を行ったり、場合によってはご家族様へ連絡を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様との信頼関係を構築し、話しやすい環境を整え状況を考慮しながら傾聴を行っている。	日々、入居者とコミュニケーションを取り、希望や意向があれば記録に残しケアに反映している。無理なことを言う方もいるが、傾聴し話を聞くことに心がけている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りを行い、ご入居後も本人様、ご家族様に尋ねている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前の聞き取りをもとに実際に施設での生活の中で行って頂いたり、現状の把握を行うように援助している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族より不安や困っている事を尋ね、職員間でもケアカンファレンスや担当者会議を行い、その方にとって最良の生活が送れるようケアプランに反映している。	毎日、申し送りに入居者の気づき等の報告が行われている。記録を残し、カンファレンスで話し合いを行い、身体状況も含めケアプランを作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議やケアカンファレンスを通し情報の共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、その方に必要なケアのあり方を検討しご家族への相談に繋げている。また併設施設や協力病院などに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのお祭りに参加したり、近隣の方との交流が出来る様援助している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医への受診、相談を行いそこから本人様に必要な医療につなげられるようにしている。	かかりつけ医に受診を行っている。往診を受ける方もいる。受診の際は事業所が医療的な事を尋ねることもある。医師の指示や薬の管理等は家族に報告し職員には申し送りを行っている。緊急時の対応、薬の既往歴等ファイルに記録し対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による毎日の健康チェックを行ったり、状態の変化を気づいた場合はすぐに相談、医療につなげられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院等された場合は状態を考慮し、ソーシャルワーカーとの連携を行っている。場合によっては病院での医師を含めたカンファレンスにご家族了承のもと参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診やかかりつけ医に相談を行い、医師も含めた上でご家族と話し合いを行っている。当事業所で出来る範囲の説明も行い、事前に理解して頂いている。	重度化、終末期、看取りについて法人内で研修が行われている。家族の方に重度化について説明を行い、事業所が対応できる支援内容は話し合いの中で伝えている。看取りについては、今後の課題として取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、慌てず対応出来るよう各自でマニュアルを読んでいる。また状況によっては会議、連絡ノートを通し冷静に対応出来る様呼びかけを行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者をたて、年2回避難訓練等を行っているが、地域との協力体制までできていない。	夜勤体制も含め、年に2回訓練を行っている。緊急電話連絡のシュミレーションを行い、最後の職員が管理者まで連絡するルールを決め実践している。	年間を通して訓練は行われている。近隣には住宅、病院があることから事業所内の訓練だけでなく、医療との連携、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練が行われる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を尊重した言葉使いに留意し、状況に応じた言葉使いを心がけている。また職員間でも注意しあえるようにしている。	言葉遣いには、理念である「敬い、思いやり」を基本に、その都度、注意をしながら声掛け、誘導を行っている。入居者の気持ちを大切にさりげないケアが行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様と話しを行いご自分で決めて頂ける様な声掛けを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の表情、声色、性格を考慮し希望に沿った過ごし方が出来る様援助を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人様に何を着たいのかを決定して頂き、季節に応じた衣類が着用出来る様に声かけもやっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を確認し個別に対応出来る物は対応している。また好評だったメニューは今後の献立に反映させている。食後は下膳の手伝いや食器洗いを一緒に行っている。	入居者が出来る事は、職員の見守りの中、行われている。自分のお膳や他の入居者のお膳を引かれていた。おやつ作りも職員と共に、次回はどら焼きを作る予定とのことである。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記載し、当日出勤職員がその日の状態を把握できるようにし、申し送り等を通し日々観察を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面台へ案内し口腔ケアを行ったり、本人様に声かけを行い行って頂けるよう見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	申し送りや、会議を通じ本人様の状況にあった排泄ケアが行える様にケアの統一を図っている。また成功した例などがあれば記録を通し、他職員も共有出来るようにしている。	95歳の方が夜間ぐっすり休んでいるため睡眠時間を大切に考えオムツ交換の時間を検討しケアを行っている。退院後、歩行が不安定でポータブルトイレを使用、紙パンツを進めたが拒否され今は布の下着で対応し排泄ケアに取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別で便秘対策は違っているので本人様に応じた対策が取れる様考慮している。基本的には水分を多めに摂って頂けるようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には本人様に意向の確認を行い、健康面を考慮できるようバイタルチェックも確実にやっている。	入浴時にはバイタルチェックを行い、体調を確認している。一人ひとりの対応で行われている。入浴希望があればいつでも対応し、拒否をされる方は、他の職員が再度、声を掛けを行い気持ちよく入浴が出来るように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ウトウトされていたり、本人様の状態に応じ午睡の声かけや支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を確認したり、看護師にその薬の効果を確認するなどし、薬の変更等があればその効果や副作用が周知できるよう連絡ノート等を通し伝達を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の得意分野で役割が持てる様心掛けている。また生活歴や仕事なども視野に入れ考慮している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を設ける為行事計画の立案を行ったり、本人様の訴えを聞き入れ外出支援を行っている。	誕生日会に近くの飲食店へ食事に出かけている。日頃、話をされたい方が外出することで会話が弾み話をしてくれる。宝くじを買いに行くこともある。本人の行きたいところの希望を聞き、近いところで外出計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は行わず、ご家族に依頼をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿ってご家族へ電話を行ったり、ご家族にも協力して頂ける様呼びかけを行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画を入居者様と一緒に作成し掲示している。また日々のレクの中で季節を感じられるような話を行ったり、おやつ作りを行っている。	職員の意識付けもあるが、午後から職員が交代で毎日5分間清掃を行っている。入居者と共にタンスの上や窓の棧、洗面台等を掃除している。家族からの要望でトイレ内に手すりを付けることでスムーズに移動ができる様になった。廊下の天井には、空間を設け換気が良くなる工夫がされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様間での相性を考慮した席の提供や一人になれる空間が出来る様居室へ案内したりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時にご家族に相談を行いなじみの物を持ってきて頂けるよう依頼をしている。	入居者、家族の希望に応じて部屋作りをしている。窓からの光も十分あり、明るい部屋になっている。馴染みの布団、写真等を飾り、使い慣れた物や馴染みの物が活かされ居心地よく過ごせる工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が送れるよう見守りや必要時の介助を行い手伝い過ぎない様自立支援に留意している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400078		
法人名	社会福祉法人 桜園		
事業所名	グループホーム さくらそう (かのんユニット)		
所在地	福岡県筑後市大字西牟田6028-1		
自己評価作成日	平成27年3月4日	評価結果確定日	平成27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JkyosvoCd=4092400078-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成27年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらそうの理念の中心にある『笑』がある生活を送る事ができるよう、スタッフ全員で入居者の方の生活を支え、笑顔で一日を過ごして頂く事を目標にし支援していきように努めている。また、認知症に特化した施設として、さくらそう農園での農作業などを通して、少しでも認知症の進行防止、現状維持ができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑を中心に、自由、思いやり、安心、信頼そして、みんなで支えあいながら、楽しく笑いあいながら慣れ親しんだ『ちっこ』でさあ暮らそうを理念とし、職員の目の届く所に掲示して、一人一人が役割を果たせるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りへの参加、また等事業所での空き祭りに地域の方々を招待するなど、開設当初から比べると、毎年少しずつではあるが、交流を深めていく事ができていると思われる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献事業としての、「さくらそうカフェ」を事業所内で月1回開催し、協力医療機関のソーシャルワーカーと連携し、認知症や介護に関する相談などを受ける体制をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での、御家族、行政等からのご意見について、会議録に記載し、情報を共有できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の介護保険係の方には、不明な点での質問や、運営推進会議、アクシデント報告などを通じての関わりを持ち、現状の説明などを行っており、状況についての理解をして頂いている。開設から4年が経過し、関係は築けていると思われる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、原則行っていない。玄関についても夜間帯は施錠を行うが、日中は開錠しており、外に出ようとされる方に関しては、見守り、付き添いを行い、出来るだけ行動を制限しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年、同グループ内での虐待防止に関する研修が開催され、研修の中で虐待について考える機会を設けている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、研修があっており参加している。成年後見制度等について、ご入居者の方で必要な方がいらっしゃるかどうか検討するが、実際に利用される方はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族にとっては、契約当日に、契約内容を詳細に渡り理解する事は難しいと思われる為、契約の際には必ず、契約書を読み直して頂き、ご不明な点については、いつでも尋ねて頂くようにお話をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、件数は少ないがご意見を頂いている。その内容に関して職員で検討し、手すりを設置するなどの対応をとっている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、グループホーム会議、またユニット会議を開催し、スタッフからの意見や提案を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等を通じて、スタッフの思いや考えなどを聞き、またそれ以外でも個々の意見などはできるだけ話を聞くように努めている。職員の個々の努力や実績、勤務状況に関して、上司に報告を行うなどの対応をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	性別、年齢などを理由に不採用とする事はない。幅広い年齢層のスタッフが働いている。様々な年齢層のスタッフがいる事で、各年齢層に応じた能力を発揮できているのではないかと思われる。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	毎年研修があり参加している。日常のケアの中で、ご入居者に対して、適切でない声かけなどがあつた際には、どの都度指導して対応している。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフがスキルアップできるように、毎月の施設内研修等への参加を勧めるなどの対応をとっている。働きながら日々のケアの中で学んでいる事は多いと思われるが、個別での指導などの取り組みは今後の課題であると思われる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加し、他の施設のスタッフの方との交流を行う中で、情報交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の関わりの中で、入居者と蜜にコミュニケーションを図り、安心して頂けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に際して、心配や不安、また不明な点があると思われる為、事前に電話連絡などを行い、また御家族、来所時にはできるだけ関わりを持ち、少しでも早く関係を築けるように努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みがあった際に、お話を伺った上でご本人、ご家族が必要としている支援を見極め、必要に応じて他のサービスに関しての説明なども行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ご本人を介護される方ではなく、生活を共にする方として接し、洗濯物たみやなどの暮らしの中での作業、また入居者、職員でのコミュニケーションを通しての世間話などを通して関わりを持ち、関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会や、外出・外泊、病院受診などを通して御家族との接点を持って頂き、入居者との繋がりが持てるように対応している。また、御家族への近況報告のお手紙や面会時には必ず御家族とお話をするなど、関係を築くように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られた際には、居室等でお話をして頂くなど、ゆっくりと過ごして頂ける環境作りを行っている。また馴染みの場所について、数少ないがご本人の希望に添ってお連れするなどの対応をとっている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりをもてるように、会話の橋渡しをしたり、座席の配慮などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、御家族は今後の生活の場を心配される方が多い為、ご本人の状態に応じたサービスについての説明など、不安にならないように配慮し、関係性が途切れないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、ご本人にお尋ねを行い、また、ご自分で意思を伝えるににくい方に関しては、ご本人の思いを出来るだけ汲み取れるように努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、ご家族に今までの暮らしなどについてお尋ねし、フェイスシートを作成している。そのフェイスシートを通して、スタッフに周知できるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中でのご本人の状態を把握し、記録や連絡ノートを通じて情報共有を行い現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスや日々の職員間の申し送りの中で、現状と今後の課題、ケアについて検討し、ケアプラン作成に活かしている。また御家族に関しては、電話連絡、また面会時などにお話をして意見をお伺いし、内容がプランに反映されるようにしている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で状態の把握に努め、個別記録や連絡ノート、申し送り等で情報を共有し、ケアやケアプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態に応じて、現段階でのサービスが適応されているのかなどを判断し、必要なサービスを受けられるように検討し、御家族へ相談を行ったり、必要であれば実践するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方が安心して暮らす事ができるように、地域との関わりを持ち、また併設施設とも協力し合いながら、安全で豊かな生活を送って頂けるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が信頼してある以前からのかかりつけ医との関係を築き、ご本人の状態把握を行いながら、適切に受診できるように支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中での変化などを察知し、看護師への報告、連絡、相談を行い、必要に応じてご入居者が適切に医療を受ける事ができるように対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療施設のソーシャルワーカーと連携をとり、ご入居者の状態把握に努め、実際に面会して状態確認を行っている。また、ソーシャルワーカーとの関係作りにも努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時などに重度化した場合や終末期のあり方についての説明を行い、また、ご入居者の状態の変化に応じて、御家族への説明、話し合いの場を設けるなどの対応をとっている。またかかりつけ医への相談を行うなどしている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修等で勉強はしているが、応急手当や初期対応などの訓練が定期的に出てくるか、また実践力を身につけているとは言い難い面がある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との避難場所や緊急連絡網の協力体制は出来ているが、地域との協力体制までは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないような声かけを行うように配慮している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でのご本人とのちょっとした会話の中で、思いや希望を傾聴したり、場面に応じて自己決定が出来るように対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常生活の中で日課はあるものの、基本的にはご本人のペースで過ごして頂けるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着替えが出来る方は、着たい服を選んで頂き、また身だしなみを整える事ができるよう、訪問理美容サービスを希望で受けられるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症の度合いなどにより、食事の準備片付けなどへ参加が難しくなられている方が多いが、その中でも可能なご入居者と共に取組むなどの対応をしている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に応じて、栄養や水分量が確保できるように、補助食品やお茶の代わりにゼリーなどで対応するなどの支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施している。また週に1度洗浄剤で義歯の消毒を行っている。必要な方に関しては、歯科往診にて口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	90歳以上の高齢の方であっても、日中は出来るだけトイレでの排泄を行って頂き、個々人の排泄パターンや、排泄状況に応じて、出来る限り排泄の失敗が少ないように支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給などに努め、スムーズな排便につながるようにしているが、それだけでは不十分な場合が多く、受診時に医師に相談し、薬での排便コントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を設定しているが、その日のご本人の状況や希望に応じ、随時変更を行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活の中で無理をさせないように、休息の時間をとって頂くなど、ご本人のペースで過ごす事ができるように対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者、個々人の薬の目的副作用などに関しては、看護師また経験年数の多いスタッフは把握できていると思われるが、まだスタッフ間で差があると思われる。また、服薬に関しては、服薬介助時に職員間で声を掛け合い、誤薬などがないよう確実にご入居者に服用して頂けるように対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の入居者の方には今までの生活の中での経験を活かして家事的作業の声かけを行ったり、ある男性入居者の方に関しては、楽しみである宝くじの購入や買い物など必要に応じて支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日などは、散歩に出かけたり、またご本人の希望があった際には、その日の状況を見て個別の外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭に関しては入居者間のトラブルになりやすい為、所持する事を控えて頂いている状況にあり。また、金銭管理は行っていないが、ご家族の了承の下、ご本人で小額の金銭の管理を行っていらっしゃる方もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承を得て、希望がある際には電話連絡をして頂くなどの対応をとっている。また、お手紙のやり取りに関しては、お一人ご自分ではがきなどを書かれる方がいらっしゃるが、ご家族より必ず投函する前に確認をとるようにとの対応になっている為、ご家族にお尋ねしてからの対応としている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、居室等に関して職員で担当を割り振り、5分間清掃を取り入れるなどして、快適に過ごす事ができるように取り組みを行っている。また、ホール内など、季節を感じる事ができるように、レクリエーションを通して飾り付けの作業などを行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置して、空間作りを行ったりはしているが、ほぼホールでの席が固定化している事、またホール自体も広い空間ではない為、思い思いに過ごせる環境作りを検討する必要がある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や、自宅に置いていたタンズなどを持参され、居室に配置されている。また入居時に御家族と相談をしながら、ご本人が居心地良く過ごせるように、必要な物品を持参して頂いている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、ご自分で出来る事は行って頂き、自立支援が出来るように努めている。		